

鹿児島県立与論高等学校 校長通信

第21号 (令和8年1月28日/校長 大倉秀心)



校訓「好学 創造 親和 不屈」

鹿児島県大島郡与論町茶花1234番地1

電話 (0997) 97-2064

FAX (0997) 97-2844



陸上自衛隊第8師団音楽隊来島

去る1月24日（土），陸上自衛隊第8師団「島しょ演奏会 in 与論島」が行われました。第8師団の方々には初めてお目にかかるので、どんな組織なのか興味が湧きネットで検索してみると、「陸上自衛隊第8師団 師団長インタビュー」というアナウンサーの宇賀なつみさんと師団長が対談する動画があったので、それを視聴してみました。

第8師団は熊本にある隊員約5,000人の南九州3県（熊本・宮崎・鹿児島）を担当する師団で、主な任務として熊本地震などの大規模な災害派遣、日本の国土を守る防衛警備、平和協力活動などの国際貢献、平素の他国軍との共同訓練があるとのことです。

南九州の地域的な特性としては、有人・無人合わせて1,958の数多くの離島を抱えていることで、これらの離島を守ることも重要な任務です。また、第8師団は「機動師団」と呼ばれ、何かあったら速やかに動き任務にあたるということです。与論島で生活する我々としては第一にお世話になる師団ということになります。「よろしくお願ひいたします」という思いを強くしますが、皆さんはどう感じますか。

そんな第8師団から音楽隊が来島するということで、第8音楽隊についても検索してみました。以下、ホームページの紹介文です。

陸上自衛隊第8音楽隊は北熊本に駐屯する、音楽演奏を主任務とする部隊です。

南九州3県を防衛担任する第8師団の音楽隊として、熊本、宮崎、鹿児島を演奏担任しております。

主な演奏活動は定期演奏会、ふれあいコンサート、巡回演奏会などを実施するとともに、市町村からの要請による演奏や、音楽鑑賞会、学生吹奏楽の技術指導などをを行い、地域の皆様との親近感の醸成を図っております。（陸上自衛隊第8師団ホームページ）

自衛隊というと、どうしても「防衛」の任務が先にイメージされますが、それ以外にも様々な任務があることがわかりました。そして特に、音楽演奏を主任務とする部隊が独立して存在することは、恥ず

かしながら私は今回初めて知りました。これも職業学習の一つですね。

ネットを検索すると、第8音楽隊が様々な地域で演奏されている様子が動画で出てきます。音楽演奏を通じて自衛隊という組織を地域の人たちに広く理解してもらう活動を続けていることに敬意を表したいと思います。そして、この小さな与論島まで足を運んでいただいたことに対し感謝の念に堪えません。

「感動」「感謝」そして「学び」

演奏会は圧巻でした。国歌「君が代」で始まり、行進曲「陽光を背に」～「忠誠」、「口笛吹きと犬」、「リバイバル・ヒットメドレー」、「伝説の長寿番組メドレー」と続き、最後は本校と与論中の吹奏楽部との共演で「宝島」を演奏しました。

日頃、小編成での演奏を聞き慣れた耳には、今回の演奏はとにかく迫力があり圧倒されました。また、隊員の皆さんのが趣向を凝らし、歌やダンス、寸劇やコント等を演奏の中にちりばめることで、一瞬も退屈させない素晴らしい演奏会になったと思います。

日常様々な任務を果たしながらも、地域住民を楽しませるために、こんなにも一生懸命に演奏活動をしてくださっている隊員の皆さん姿を見て、私はただただ感動していました。

午前中には本校の吹奏楽部員に実技指導もしてくださいました。本当に本校生にとって有り難い一日になったと思います。

演奏もさることながら、私が感銘を受けたことがもう一つあります。それは隊員の皆さん立派な姿や所作の美しさ、そして統一感です。肩に力が入らない自然な姿で真っ直ぐに凛としている姿勢、そして複数で動く際にはピシッと動作がそろう様子は、見ているこちらも身が引き締まります。このような姿勢や所作の美しさは、これから大人になる生徒の皆さんに自ら学び身につけなければならないことの一つだと思



います。

制服の美しさ

演奏会前日の夜には与論町自衛隊家族会の計らいで、来島された隊員の皆さんをお招きして懇親会が行われました。私も案内をいたしましたので参加させていただいたのですが、自衛隊の方々とのこののような場は初めてだったので、少々緊張して臨みました。

しかし、会食が進むにつれて、様々な隊員の皆さんとお話しする機会があり、皆さんが気さくに会話してくださることで、一気に緊張が解けたような気がします。

隊員の皆さんはこの場に迷彩服の制服で参加されていましたが、この制服の着こなしがまた美しいのです。まあ、言い方を変えれば一人一人の隊員さんに似合っている。よくよく話を伺ってみると、事前にきちんと体の各部分を採寸してから作られた制服を支給されるということです。制服が小さすぎるとか大きすぎるとかいうことはなく、ピッタリと体に合う制服をきちんと着こなしている。どうりで格好よく美しく見えるのですね。

最近のテレビ等の学園ものでは、制服を「着崩す」姿が当たり前のように映し出されています。中に入れるべきワイシャツを外に出す、留めるべきボタンをわざとはずす、ネクタイを上まで締めずにだらーんと垂らすなど。あれはいけませんね。制服の意味が全くなくなっている。

本来制服とは、同じものを同じように着ることで所属団体への責任を果たすという意味があります。「着崩し」は私服で、個人として、ファッションとしてやってもらいたいですね。

制服は英語で "uniform"。接頭辞の "uni-" には、動詞の "unite" (統合する・結びつける) からも連想できるように、「単一の、一つから成る」という意味が含まれています。ですから、「一つの "uni -"」「形 "form"」で "uniform"。制服は各自バラバラの着方をしてしまえば意味そのものが消失することを忘れないでください。

制服は「着崩した方が格好いい」「着崩した方が異性にモテるかも」。若い皆さんにはそんな気持ちもあるのかもしれません。しかし、そのような幼稚な考え方は今すぐ卒業し、格好いい大人を目指してほしいと思います。

第8音楽隊の皆さんのお制服姿も惚れ惚れするほど格好良かったことを申し添えておきます。

学ぶべき機敏な行動

前日の懇親会の場で、私は一つ「やらかし」ました。テーブル上のコップに入った水を誤ってこぼしてしまったのです。水はテーブルの上だけではなく、床にまで盛大にこぼれてしまいました。

しかし驚いたことに、「あー、やっちはまつた！どうしよう...」と私があたふたしている間に、数名の隊員さんが駆けつけ、「こぼされたのは水だけですか？ (=ほかにビールや焼酎等こぼしたものはありませんかの意)」と言いながら、一瞬のうちに(多分私がこぼしてから約30秒) テーブルも床も原状復帰してくださり、その後何事もなかったかのように私は会食を続けることができたのです。

私はこの時、「さすが機動師団」と感心するとともに、まだ手元がおぼつかない幼児がテーブルに牛乳をこぼしてしまうかのごとく、いい大人が水をこぼしてしまう恥ずかしい状況を一瞬のうちに収めてくれる心配りに感謝するばかりでした。

懇親会終了後のテーブルや椅子、食器類などの撤収も、私がちょっと立ち話をしている間にすべて完了していました。とにかく早い。隊員さん一人一人に無駄な動きがない。ボケーッと意味もなく立っている人は一人もいないのです。

吹奏楽部の堀之内先生からも同様の感想を聞きました。演奏会の会場設営の手際が驚くほど良かったと。専用のメジャーを使って、観客席の席と席の間隔や、ステージと観客席最前列までの間隔などをとっていくそうです。といえば隣の人や後ろの人との間隔が、近すぎもなく遠すぎもない絶妙な間隔だったような気がします。そして、撤収作業の方も驚くほど早かったそうです。

これらのこと、「自衛隊だから当たり前」と片付けるのではなく、我々の生活の中でも活かすべき場面があるのではないか、と考えてみる。皆さんにはこのようなことからも「学び」を得てほしいと強く思う次第です。

昨年本校から自衛隊に入隊した先輩は4名。今年入隊予定の3年生は3名。今回来島された隊員さんたちのように、誇り高く任務にあたってください。与論島よりエールを送り続けています。